



特 許 願

昭和50年2月3日

(2000円)

特許庁長官 斎藤 英雄 殿

1. 発明の名称
ハウソウキ オ センタントウマ ホウホウ
包装機に於ける先端胴巻き方法
2. 発明者
シモオチアイ
住所 埼玉県与野市下落合1205
ヨシダ ヨシ オ
氏名 吉田 芳雄 (外2名)
3. 特許出願人
郵便番号 116 TEL (802) 1101
ミナミセンジュ
住所 東京都荒川区南千住7-20-24
ミナミセンバウセイサクショ
名称 株式会社 南千住製作所
タカ オカ ヒサ オ
代表者 高岡 久夫
4. 添付書類の目録
(1) 明 細 書 / 通
(2) 図 面 / 通
(3) 願 書 副 本 / 通

明 細 書

1. 発明の名称
包装機に於ける先端胴巻き方法
2. 特許請求の範囲
上部包装紙搬出ロールの下部にラインシヤフトよりクラッチ、ブレーキ、チェーン等を介して一定速度で伝動される上下の胴巻きピンチロールと、前側に一方向クラッチとチェーンを介してエアシリンダ等で任意の速度で伝動される上下の供給ピンチロールを配置し、被包装体を包装紙が先端をくくる如く供給ピンチロールで送り胴巻きピンチロールに被包装体が喰込む時に包装紙が希望する適度なゆるやかさで巻き付くように、胴巻きピンチロールと比較して供給ピンチロールを低速側に変速可能としたことを特徴とする包装機に於ける先端胴巻き方法
3. 発明の詳細な説明
本発明は平判包装紙の胴巻方法に関するもので、従来被包装体が鉄板、プラスチックプレート、ガラス等の如くコーナーがシャープエッジ

①9 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 51-90687

④3公開日 昭51. (1976) 8. 9

②1特願昭 50-14188

②2出願日 昭50. (1975) 2. 3

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

6519 38

⑤2日本分類

134 A311

⑤1 Int. Cl²

B65B 11/08

な横層プレートの場合、包装紙をタイトに胴巻すると、後続する耳折り工程のコンベヤ搬送中又はバレイズ時の包装体落下積載時に横層プレートのコーナーと稜線のシャープエッジの為に包装紙が切れたり、破損したりする事があつた。その為に包装紙自体を強いものにしたり、胴巻きをゆるく巻き付けるようにするが中々一定のゆるみで胴巻する事が出来ず、包装荷姿を壊るくしたり、時々破損するのが現状である。

従つて本発明の目的は先端胴巻時に包装紙を希望するゆるやかさに巻き付かせる為に胴巻ピンチロールと比較して供給ピンチロールを任意の速度で伝動して被包装体(横層プレート)の送り速度と胴巻きピンチロールの表面周速とに速度差をもたせて包装紙を被包装体先端より先に引き出す如き効果をもたせて被包装体を喰い込ませる事により胴巻きを適当なゆるやかさで行い、包装体の包装紙の破損を防止する方法を提供するにある。

以下実施例についてこれを詳しく説明する。

第1図及び第2図は本発明の側面図と伝動系統図であり、被包装体aは供給コンベア1を介して下供給ビンチロール2と上供給ビンチロール3にはさまれ押付圧はスプリング等により与えられている。上下供給ビンチロール2と3はチェーン16で連動され、エアシリンダ13によりラックピニオン12と一方向クラッチ18とチェーン14を介して任意の速度で伝動される。一方向クラッチ18はラックピニオン12側より見て反時計方向にのみ伝動可能で、下供給ビンチロール2を駆動する。

一方上側供給ビンチロール6は被包装体aの厚さTに対して適当な圧着代をもつてスプリング等で押し下げられており、下側供給ビンチロール5はチェーン17で連動されている。この上下側供給ビンチロール5と6はモータ22で駆動されているラインシャフト21よりクラッチ20とブレーキ19とチェーン15を介して包装サイクル毎に起動、停止がなされる。一方包装紙bは図示はしていないが、捲出機と計測装置によ

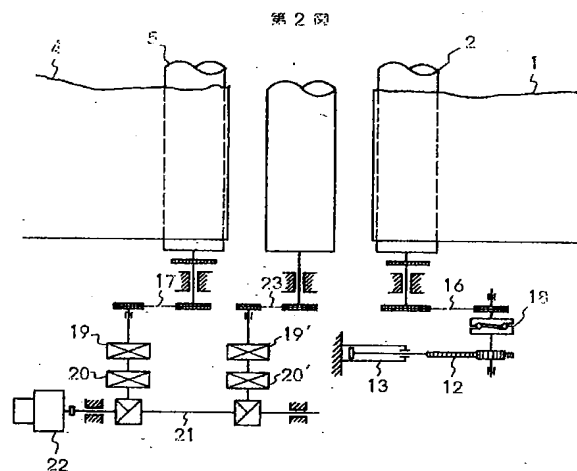
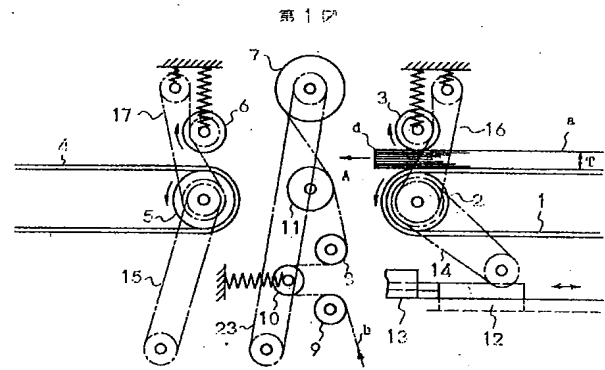
りダンサーロール10とガイドロール8、9、11を介して包装サイクル毎に被包装体に見合う長さだけ繰り出され、ラインシャフト21よりクラッチ20A、ブレーキ19Aとチェーン23を介して上部包装紙巻出ロール7に巻きとられている。

従つて連続包装作業に於て被包装体aを上下ビンチロール2と3ではさんで適当な速度で送り出すと被包装体の先端a'は包装紙bをガイドロール8側と上部包装紙巻出ロール7より同じく引き出しながら進行する。しかるに第3図に示す如く上側供給ビンチロール6と側巻コンベア4は被包装体の送り速度より速い周速で伝動されている為、被包装体の先端a'が喰込む時は上下の包装紙が先に引張られて第4図の如く包装紙は被包装体の先端をくくり希望するゆるやかさで巻き付ける事が出来る。

従つて本発明の先端側巻き方法を用いれば、包装体の包装紙の破損を防止し、且つ一定の包装荷姿を保持する効果がある。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の実施例を示すもので、第1図は側面図、第2図は伝動系統図、第3図は先端側巻進行図、第4図は先端側巻状態図である。1、供給コンベア、2、下供給ビンチロール、3、上供給ビンチロール、4、側巻コンベア、5、下側供給ビンチロール、6、上側供給ビンチロール、7、上部包装紙巻出ロール、12、ラックピニオン、13、エアシリンダ、14、15、16、17、チェーン、18、一方向クラッチ、19、ブレーキ、20、クラッチ、21、ラインシャフト、22、モータ、a、被包装体（横截プレート）、a'、先端、b、包装紙、A、搬送方向、T、厚さ、



特許出願人 株式会社 南千住製作所
代表者 高岡 久夫

5. 前記以外の発明者

ヒシカタ

住所 埼玉県越谷市平方 2889-23

氏名 イチノガキ ケン ジ

市野川 欽 司

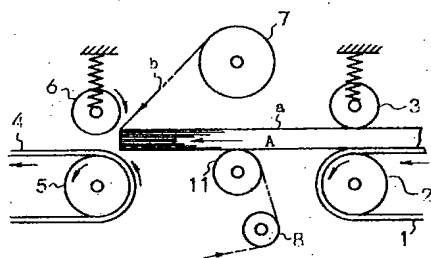
ヒガノカイ

住所 埼玉県荒川市東深井 396

氏名 コヤマ ヤス シ

横 山 康 司

第 3 図



第 4 図

